

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症によって自立生活が困難になった利用者が住みなれた地域の中で住民との交流を維持しながらその人らしく暮らしつづけることが出来るように支援することを目的としている。2000坪の広大な敷地内には10数本の桜や梅の木がある。花の開花時期には地域の方に開放するなど一緒に楽しんでいただいている。		デイサービス事業の開始について検討中である。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	恵まれた自然環境の良さを日常のケアに生かし家庭的な雰囲気を大切にすることが理念の前提であり、職員たちの目につく所に理念の文書を掲示している。日常的に職員が意識して働いているかお互いにチェックしている。理念の実践について外部評価の時期に再検討でき、この自己点検は非常に有意義であると思う。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	認知症になっても地域であたりまえに暮らすことの大切さ、ホームの理念や役割について運営推進会議や行事などの機会を通じてお話させていただいている。入居者や家族には入居前や入居時に説明し理解していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や回覧板をまわす時や地域の方とお会いした時には必ず挨拶をするように心がけている。ホームのすぐ近くに住んでいた方が2名入居しており、お友達が遊びに来ることが多い。一緒にお茶を飲んでいただきゆっくりお話ができるように配慮している。地域の方からきれいな花が咲いたからとホームに届けてくださることもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にはいっている。地域と一緒に防災訓練をしたこともあり、本年度も予定している。ホームの行事などで地域の方に来ていただくことは多いがホームから出て行くことは少ない。福祉センターでのコンサートや公民館祭りなどへの参加は毎回楽しみにされている。		地域活動に積極的に参加するために、老人会に加入することも検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>ホームの別棟にあるオーナー宅を利用して地域の方を対象に時々昼食会を開いたりお弁当の宅配などができないか検討中である。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前、入居時に一通り説明しているが変更した内容についてはその都度説明をし理解・納得をしていただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者や家族が気兼ねせず何でも話せるような雰囲気づくりに心がけ、どのような些細なことでもとりあげ運営に反映している。特に食事や外出、行事など希望を聞くことが多い。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議の報告や家族会の報告などの議事録を送付するようにしている。また、面会や行事などでホームへお出でになった場合は本人の健康面や暮らしぶりなどについてお話をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会または面会時など家族から意見・不満苦情などが積極的に出せるように配慮し、出された物は即、運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>不定期であるがミーティングの時間をとり積極的に意見を述べていただき、いいものは取り上げ運営に活かしている。普段から職員同士自由に発言できるようにし、出された意見に対して前向きに対応するようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況などに応じまたレクや行事など人手を増やしたい時には勤務の調整をしている。また、職員が働きやすいように勤務希望を聞いて勤務表を作成したり急な用事で交代して欲しい場合お互いに気持ちよく交代してあげられるように職員同士協力しあっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームを開所して6年を過ぎたが1年前より、職員の定着率はよくなった。退職により入居者に影響がないように細心の注意を払うようにしている。今まで職員の退職により入居者へダメージを与えたことは一度も無かった。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>グループホームに適する人材であるかどうか一番に考え採用。やる気があれば年齢はあまり気にしない。研修にも積極的に参加できるように配慮。料理教室や趣味活動に参加している職員も数名おり自己実現のために活動しやすいような勤務への配慮もしている。</p>		
<p>20 人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>認知症高齢者の倫理機構や認知症高齢者グループホーム利用者の権利擁護など、職員の目につきやすい場所へ掲示している。研修の機会があれば積極的に参加し伝達報告を行っている。</p>		
<p>21 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修案内があれば全員に回覧し、希望者にはできるだけ公費で参加できるようにしている。また、希望が無くても受けて欲しい研修には指名により受講させている。施設内での研修は不定期であるがミーティングにて行っている。</p>		<p>外部での研修には積極的に参加しているが内部では忙しいことを理由に研修機会が少ない。毎月1回定期的におこなうよう研修計画を立てたい</p>
<p>22 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や市などが主催するグループホーム協議会などに積極的に参加し情報交換をし、交流の機会をつくっている。自分たちが悩んでいる課題など参加することによっているんな考え方があることを知り、沢山のヒントをいただくことが多い。今後も交流の場に積極的に参加したい。</p>		<p>他のグループホームとの職員交換研修を考えている</p>
<p>23 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや話し合いなどによりお互いが遠慮なく話し合える場をつくっている。意見の食い違いで問題が生じた場合には我慢をしないでその都度話し合って解決をするようにしている。ストレスマネジメントのための研修への参加なども積極的に奨励している。職員の親睦会も気晴らしの場となることが多い。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のやる気を育てるために働きやすい環境を整えるように配慮している。受けたい研修、受けて欲しい研修などには参加できる機会を積極的にとっている。管理者や職員の実績・努力に対し待遇面などにも配慮している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の面談では違和感や威圧感を感じさせないように何でも相談できるような温かい関係作りを心がけている。また不安なことや求めていることは何かをじっくりと聴くことで信頼関係を築くよう努力している。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の面談では違和感や威圧感を感じさせないように家族が困っていることを何でも相談できるような温かい関係作りを心がけている。不安な事、求めている事は何かをじっくり聴くことで家族の心情を理解するよう努力している。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の能力や心身状況を踏まえ、必要としている支援は何か、利用者家族が望むサービスが受けられるように調整する。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員が入居前に家族を訪問をしたり、入院や他の施設に入居している場合は病院や施設を訪問し、馴染みの関係を作るようにしている。例えば、家族と一緒に遊びに来ていただき職員や他の利用者に関わり、徐徐にその場の雰囲気に馴染めるよう本人が納得し入居できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りや家事など本人が得意とする分野で力を発揮してもらい、調理方法や漬物づくりなど教えてもらうこともある。また昔の風習・ならわし、遊びや道具など回想法に取り入れるといきいきと会話がはずみ楽しい時間を過している。若い職員など入居者から学ぶことが多い。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって家族の愛情が一番。しかし、無理なことを押し付けて負担になってはいけない。情報を共有し家族とのいい関係を維持し一緒に本人を支えあっていくようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居されても本人と家族のいい関係が継続されるように行事の時のお誘いや外出・帰省など自由にさせていただいている。ただし、家族の負担にならないように配慮している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続されるように誰でも面会に来やすいような環境作りに心がけている。ホームのすぐ下に住んでいた入居者の所へ近所の友達の面会が多く、時には入居者が友達の家遊びに出かけたりすることもある。行事の時などお友達にも声かけをすることもある。このような関係を大事にしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昼間はリビングで皆さん一緒に過されることが多い。入居者同士の会話がはずみ、毎日楽しく過されている。お世話好きの方もおられ、話し相手になったり、出来ないことを手伝ってあげたり皆さんとっても仲がいい。些細なことから口論になることも時にはあるが、職員が仲裁に入ることによりその場はうまくおさまることが多い。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院された場合には職員が頻回に面会に行き、入居者や家族への精神的なサポートをしている。また他の入居者たちと一緒に面会に連れていくこともある。退居された後も家族からの相談があれば他のサービスの利用についてなどアドバイスをするようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活暦・日々の入居者との関わりや思い・態度等をよく踏まえ今後の生活に反映させている。その方のしたいこと出来る事をみだし支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや日々の利用者の会話・生活態度から推測し、ご家族・知人からの情報を収集することで生活歴の把握に努める。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の心身状態・内服薬等を把握し担当医・看護師と連携をとりながら一日をどのように対応すれば無理なく穏やかに過ごしていただけるか暮らしの状況の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中から入居者の方の思い・願い・気持を引出し、本人の快い居場所を本人・家族・職員と話し合いながらケアのあり方を検討し介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間が終了したら評価をし職員・家族と担当で会議を開催し見直しをしている。但し、見直し以前に状態が変化をしたら担当者会議を開催して現状に即したケアプランを作成している。また主治医の意見や歯科医等の意見も参考にしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプラン実施のモニタリングを個々にチェックし言動・気づき・工夫など個別記録に記載をして、異変に気づいたら施設長に報告して職員で問題点を共有し取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	妻が当ホームへ入居後、独り暮らしの夫が昼間から酒を飲み引きこもりの状態になった。地域の包括支援センターにお願いし妻の面会に毎日来ることを約束(自宅から3分)し、夫の様子を包括支援センター担当の職員へ報告。夫も介護認定を受けるようにすすめ、要介護認定が出、現在ヘルパーさんにはいってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要に応じ地域の民生委員から情報ももらうこともある。地域住民と一緒に防災訓練など消防署にお願いすることもある。ホーム内の桜や梅の開花時には地域の方にも見ていただきたく声かけをしている。		ボランティアなど地域の資源を積極的に導入したい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今までに利用したケースはないが、本人や家族の意向や必要性に応じ他のサービスを利用するための支援はしていく積りである。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーに入っているため、何でも気安く相談できている。権利擁護の相談をし、現在1名が受けている。その他、オムツの支給について、家族への支援、要介護認定に関することや、入居の紹介、退居後のサービスの利用など情報交換などしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院があり内科医は月に2回、歯科医は月に1回ホームへ訪問診療にきていただいている。何でも気兼ねなく相談でき緊急時の対応や往診、点滴などの処置をしていただくことがあり助かっている。本人や家族の意向を大切にしている。ホームへ入居前の主治医を希望されることがあればその医師との連携をとり適切な医療が継続できるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師であり、相談などにも懇切丁寧に応じていただき医療との連携の心強さを感じている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員に看護師がいるために心強い。医師との連携をとりながら医療活動や日常の健康管理の支援をしている。ホームのすぐ近くに以前勤めていた看護師がおり、緊急を要することでホームの看護師が間に合わない場合お願いするように契約をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>入居者の殆どが終末期はホームを希望されている。今後も終末期ケアを積極的に受け入れたいと思う。そのための職員教育や体制、設備などの問題について整備していかなければと思っている。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思疎通の困難な方に対しては表情や行動を見極め、各々に合わせた声掛けを心がけて、入居者本人が決めたり納得しながら暮らせるように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣を知りその方の生活ペースを大切にしている。そのほかにも外出の希望があればその希望に添えるよう対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、入浴時の服装選びを相談しながらその人らしいお洒落を支援している。2ヶ月に1度を目安に訪問理美容を利用し、カットや希望により顔剃りをしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が共に野菜の皮むき、ごぼうのさがき、お米研ぎや食材の盛り付け、配膳等出来る力を活かしながら食への関心楽しみを共有している。お茶入れや、お盆、箸並べ等、自分の役割として自発的にしてくれている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝食はご飯・味噌汁又はパン・コーヒーの好きなものを選んでいただいている。パンはホームで焼いている。晩酌を楽しむ習慣があれば入居後も晩酌を続けていただくこともある。季節のものを取り入れながら希望を聞きメニューに活かしている。食欲がない場合は本人の好みのものを提供するなど一人ひとりの状況に合わせて支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを「排泄記録」を用いることで把握し、その方にあったトイレ誘導を心がけている。また便秘時には十分な水分補給をしたり、腹部マッサージを毎日レクの時間に取り入れ、排便困難な場合は医師に相談し薬を処方していただいたり、浣腸、摘便等することもあり排泄によって快適に過ごせるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人一人の体調やタイミングを配慮しながら2日に1度の割合で入浴していただいている。毎日入浴されたい方には対応させていただくが今のところ希望される方はいない。</p>	
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を踏まえた上で起床 就寝時間を変えている。本人のその日の状態で疲れがみられる場合には早く休んでいただいたり、好きなテレビが観たい場合には遅くまで楽しんでいただくこともある。毎日午睡の時間をとり休息していただいている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴や能力にあった役割を持っていただく事で、楽しみながら生き生きと活動していただけるように努めている(花の水遣り、玄関掃除、洗濯たたみ、食事の準備・盛り付け・配膳・引き膳・茶碗洗い等今まで主婦としてやってきた事を、負担にならない範囲でお願いをする)</p>	
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在の入居者の方々はお金を所持する事に関心が無いのであえて所持しては無いが、いつでも所持して使えるように家族との連携はとっている。家族の居ない方は権利擁護センターを利用しており本人が必要な場合は、説明をして納得のうえで使えるようにしている。</p>	<p>ショッピングを楽しんでいただき、ご自分でお金を所持して、買物をして支払いをしていただく機会を作る計画をしている</p>
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気のよい日は散歩に行ったり、オーナー宅の庭で食事をしたりお茶を頂きながら外気浴を楽しまれ、季節を感じていただくためにドライブに出かけることも多い。</p>	
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人が(したい～)等の希望があれば本人の状態を見ながらできるだけ出かけられるように支援している(買物 友人と食事に行く等)</p>	<p>一泊旅行を検討中</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合は家族とお話できるように支援している。年賀状・季節の挨拶など本人が希望したら支援する。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や本人の馴染みの方々の来園を歓迎して家族的な雰囲気の中で寛ぎながら家族・馴染みの方々の絆を深めて、ここで生活している姿を見ていただき安心していただくように配慮している		桜の季節は家族友人・地域の方々と共に、桜の下でお弁当をいただきながら、楽しいひとときを過ごしていただくの恒例行事としている。行事のときは、家族に声掛けをして、共に楽しんでいただくよう支援している
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことをケアの原則にしている。身体拘束がなぜ悪いかということを職員たちに研修などでしっかり勉強してもらい全員に意識づけている。低床ベッドにしたり室内の環境調整をしたり工夫をしているが現在、目の離せない方が1名おり、何かいい方法がないか検討中である。		安全確保のために拘束も仕方ないのではないかと思うケースもあるが介護の工夫で代替をする方法はないものか真剣に検討中である。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけないようにしている。人手が少なく目が届きにくい場合には安全のため鍵をかけることもある。職員が開けていても入居者が物騒だから(外から不審な侵入者が来ないように)と鍵をかける事もある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に問題行動のある方に対しては動きなどを注意深く観察し、目を離さないようにしている。また、入居者が今何処にいるかなど常に視野の中に入れておくようにしている。夜間は時間ごとに巡視。状態に応じて頻回に訪室することもある		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものでも他の人がないと困ることもある。個々の状態に応じて置かないようにすることもありますが、先ず、危険防止のためにどうすべきか考え保管・管理をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会などに積極的に参加し、事故防止に対する知識を学んでいる。事故報告やヒヤリハット報告をもとに原因や対応策について職員で話し合い再発防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	窒息やけが、転倒、行方不明など、どのように対応したらいいかマニュアルをつくり、またミーティングなどで取り上げ学習している。急変時の対応や連絡方法についてもいざという時にわかりやすく掲示している。		消防署主催の救命や応急手当の方法など全員が参加するように予定している。1回だけの訓練ではなくいざという場合にあわてないように定期的に訓練を実地したい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生を想定し毎年2回訓練をしている。いざという時にあわてず適切な処置ができるように日頃から反復訓練が必要であり自分たちの所から火災をださないということを全職員に意識づけている。地域の消防署も協力的であり地域との合同の防災訓練も実地している。地震・水害についてマニュアルを作成した。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	持病やアレルギー - など入居者一人一人について全職員が把握し対策をたてている。どのような予測される事故が起こり得るか特に問題のある方の家族には十分に説明している。しかし、事故の中にはどんなに頑張っても防げない事故もあるということを入居時の家族へのオリエンテーションで説明し理解していただいている。防げる事故に対しては最善の努力をすること。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝9時にバイタルサインをチェックしているが状態に応じて回数を増やすこともある。異常がある場合には速やかに看護師に報告。受診が必要な場合にはかかりつけ医に連絡し指示をいただき対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何のためにどんな薬を飲んでいるか職員一人一人が処方箋を見てほしい理解できている。特に注意が必要な薬(心臓の薬、ステロイド、糖尿病の薬など)については十分に説明している。服薬前には名前と用法・量について確認、服薬チェックリストを作っている。誤薬ミスがないように最善の努力をしている。副作用など症状の変化などあればかかりつけ医に報告・相談をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材として繊維性の多いものや芋類を多く取り入れるようにしている。また、毎日フレッシュジュース(人参 セロリ バナナ りんご 牛乳)を作って全員に飲んでいただいている。排便を促すため腹部マッサージや適度な運動も日課に取り入れている。3日間排便がなければ緩下剤を使うこともある。水分摂取量にも気をつけている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日4回(起床時 毎食後)口腔ケアをしている。また、毎月1回歯科医がホームへ来て口腔内の洗浄や義歯の調整などをしていただいているが口腔ケアがいいと褒められている。重度の認知症で口腔ケアに対する混乱があり難しい方もおられるが毎回丁寧にケアをすることを心がけている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事摂取の状態を観察し記録している。食べる量が少なかったり食欲がない場合、また普通食が食べられない場合には食事の内容や形態を変え一人一人の状態に合わせた食事の支援を行っている。栄養状態が悪い場合には医師に相談し、高カロリー食を提供することもある。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	特に今年は新型インフルエンザ対策で感染対策を強化したため職員たちの感染に対する意識が高まってきた。職員・入居者・来園者に対して手洗いとうがいを徹底している。感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため調理器具を清潔にすることはもちろんの事、鮮度のいい魚や肉(それぞれ専門店から取り寄せている)を使い、野菜はホームでできた無農薬野菜を使っている。当ホームは新鮮で安全な食材を提供することが基本理念であり食材の管理も十分配慮。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花を植えテーブルや椅子を置き休息の場を設置。玄関横の畑には季節の野菜を育てている。バリアフリーにし入居者や家族・地域の方が気軽に立ち寄りいただけるように馴染みの環境作りに配慮。職員たちが作った可愛い子どもの案山子が玄関先で出迎えてくれ心が癒されると好評である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには全員がゆっくりと過ごせるソファや食堂があり、ウッドデッキからの景観もよく四季折々の移り変わりを感じながら居心地良く過ごすことができる。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール・リビング・食堂・ウッドデッキ等、気の合った仲間同士で思い思いに過ごせている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者や家族と相談して使い慣れた家具を持ち込んでいる。中には仏壇を持ち込まれ朝・夕と拝んでおられる。面会者がみえても居室でゆっくり過ごしていただけるよう工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝部屋の窓を開け換気に努めている。リビングの換気、室温調節等入居者の状況に応じて行っている。またリビングに空気清浄機を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリーになっている。廊下の幅も広くトイレや洗面所も車椅子利用者に優しい設備をしている。敷地内が広いので歩行訓練や外気欲のための毎日の散歩も皆さん楽しみにされている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの判断力を活かしてトイレや居室に目印をして場所の間違いや混乱を防ぐなど自信をもって生活出来る様に支援している。わからないことはさりげなく手をさしのべ出来ないことで自信をなくさないように努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関ポーチやベランダには花壇を設置し季節折々の花を眺め、水やりや花の手入れを楽しんでいる。広大な敷地内には果樹園・野菜畑があり、天気の良い日には散歩をして野菜や果物の収穫を楽しみにしている。秋には芋掘をして焼き芋にして食べることもある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小倉南区の高台の閑静な住宅街の中あり、雄大な足立山に包まれ遠くは周防灘 北九州空港 小倉の町並みが一望でき、まるで桃源郷を思わせるような自然環境のすばらしさが光生園の誇りです。広大な敷地内にはびわ、栗、みかん、梅などの果樹園が毎年沢山の実をつけ入居者や職員たちは収穫の時期を楽しみにしております。また無農薬栽培の菜園がありいつでも新鮮な食材を使った料理をおいしくたべていただくことも光生園の自慢のひとつです。敷地内には10数本の桜や梅の大木があり、開花時期には見事な光景になります。四季折々の移ろいに日々感動され、この贅沢な環境に入居者も職員たちも心が癒されております。天気のいい日は毎日外に出て散歩やレクなどで楽しむことが日課になっております。この恵まれた自然環境をケアに活かし積極的に活動するように日々頑張っております。入居者ひとりひとりの人格を尊重し住み慣れた地域の中でその人らしく穏やかに過ごしていただくように支援することを目的にしています。